

地域づくり・集落支援

みんなで丸森をつくろう ようこそ！まちづくりセンターへ



まちづくり センターとは

丸森町が設置した、
町民が主体となって行う
まちづくり活動や生涯学習、
健康増進、地域交流の場です。
地元をよく知る「住民自治組織」が
管理運営する地域づくりの
拠点施設です。

住民自治組織とは

住民自治組織は、より良い地域づくりを
実践するための組織として、平成19年
から丸森町内8地区に設立されており、
まちづくりセンターの管理運営のほか、
次のような役割を担っています。

- ① 地域課題の抽出・計画・
合意形成・実践 ⇒ 地区別計画の推進
- ② 町や関係団体との連携・調整
- ③ 集落支援業務
- ④ その他の独自事業

「ねこがみキッチン」
食で多世代交流の場づくり

丸森地区協議会 丸森まちづくりセンター TEL 0224-72-1683

①現状の把握：地域の人たちと食を交えた集いの場を作るため、令和6年度にこども食堂「ねこがみキッチン」の立ち上げを計画しました。まずは進め方の情報収集から始めました。

②検討・話し合い：県内のこども食堂の運営に携わるNPOや、市町村職員、社会福祉協議会などで構成される「こども食堂ネットワーク会議」に参加し、運営について学び、令和6年度は年2回こども食堂を実施しました。

③具体的実践：令和7年度は、年間計画を立て4回実施。7月には約80名が参加し、角田高校の生徒もボランティアとして参加し、丸森の竹

でのお椀づくりや流しそうめんなどを楽しみました。農協や婦人会からの食材提供、調理協力をいただき、多世代が集う場となりました。その後も、町内関係団体等とこども食堂の活動状況について情報交換し、今後の継続支援や協力体制の強化を検討しています。



食を通して地域の顔の見える関係づくり

「歴史×健康」の講座で
地域愛を深める

金山自治会 金山まちづくりセンター TEL 0224-78-1121

①現状の把握：自治会では、地域住民対象の健康づくりの事業が少なくなってきたと感じていました。健康増進のニーズは高いが、新事業を次々に増やすことは負担も大きいと、何か他事業と連携して行えないかを模索しました。

②検討・話し合い：金山地区には歴史に関心が高い住民も多いことから、健康づくりと歴史探訪という2つの目的を同時に実施できないかと考えました。自治会で所有しているノルディックウォーキングのストックを10セット活用した「ノルディックウォーキングで歴史探訪」を企画しました。

③具体的実践：令和7年12月、金山保勝会や金山地区体育協会の協力のもと、説明を聞きながら金山城址と金山神社を巡りました。「体を動かしながら楽しく学べた。」などの感想もあり、目的が達成できたと感じています。いずれは住民により自主的に開催されることを期待しています。



健康づくりをしながら地域のことを知ろう

「ひっぽ楽教室」で
健康×交流×楽しみが増進

筆甫地区振興連絡協議会 筆甫まちづくりセンター TEL 0224-76-2111

①現状の把握：令和5年度まで「豊齢者大学」として実施してきた事業を、少子高齢化が進む地域で住民の方々の現状やニーズを踏まえて令和6年度からリニューアル。より多くの方に参加してもらうため、名称変更とともに内容のさらなる工夫をしました。

②検討・話し合い：事業の企画は協議会が検討。どんな内容だと楽しく参加したくなるか、健康にも寄与し交流が進むか、笑顔が増えるかを考えました。

③具体的実践：楽楽教室は4月から12月まで毎月1回、第3木曜日に実施。参加者は15~20

名前後。各回のはじめはお茶のみからスタート。ゲームをしたり体を動かしたり、地区南北対抗のニュースポーツでは、点数を付けて年間表彰も行いました。講師を招いたプログラムやまちセンスタッフ考案のゲームなど豊富な内容。住民の心と体に栄養たっぷりの教室になりました。



ストレッチして心身ともにリフレッシュ

大内地区協議会 大内まちづくりセンター TEL 0224-79-2004

①現状の把握：民謡の父として活躍した初代鈴木正夫氏生誕の大内では、伝統を次世代に継承し愛好者拡大を図るため、「新相馬節全国大会」を開催しています。協議会が運営事務局を担い今年で14回目となりました。

②検討・話し合い：大会運営は、協議会の全役員が参加した70名もの実行委員で協議して進めています。協賛は個人、企業に実行委員が直接訪問して依頼。そうした地道な声かけの成果もあり、今年の協賛額は全体予算の3分の1を超えました。

③具体的実践：令和7年の大会は、暑さ対策の

ため、開催月を例年の9月から11月に変更。県内外から多くの方が参加し自慢ののどを披露しました。町内の小学生も「ふるさと学習」の一環で参加するこの大会。今後も実行委員会で協議を重ね、時代に合わせた運営方法を模索し改善していきたいと考えています。



実行委員会が協力して参加者をお出迎え

小斎振興協議会 小斎まちづくりセンター TEL 0224-78-1111

①現状の把握：大災害発生時には、自助・共助そして地域ぐるみの協力体制である自主防災組織の存在が頼りになります。小斎地区でも平成22年8月に自主防災組織を設立し、2～3年は防災訓練などを行いましたが、その後は活動をしておらず、本来の役割と機能が発揮できていませんでした。

②検討・話し合い：令和元年東日本台風を経験し、ますます自主防災組織の役割が重要になると感じ、協議会の総務安全専門部会が中心となって規約を見直し、令和7年度から新体制で活動して

いくことになりました。

③具体的実践：令和7年度から協議会の会長が自主防災組織の本部長となり、新体制で動き始めました。平時に備えておくことは、自主防災組織の大切な役割です。令和8年2月に地区での防災訓練を久しぶりに実施し、来年度以降も実施していく予定です。集中して話を聴く参加者の皆さん



館矢間地区協議会 館矢間まちづくりセンター TEL 0224-72-2120

①現状の把握：館矢間地区は町内で比較的子育て世帯率が高く、協議会は組織運営に若い世代の参加を期待しています。しかし、住民の自発的な動きを促していくには時間がかかると感じていました。

②検討・話し合い：協議会は、以前から木沼地区伊具ノ宮での地区民主体の憩いの場づくりを応援したいと考えていました。「花木を植える会」「いいことみんなでしよう会」などが中心となり、山と山の間にワイヤーを張ってこいのぼりを泳がせたり、展望デッキを設置してお披露目会を開催したりと自発的な活動を行っていたからです。

③具体的実践：協議会では、伊具ノ宮の取り組みを後押しするために取材をし、協議会のお便りで活動紹介したほか、地区別計画の「里山を活用した地域おこし事業」の協力団体に伊具ノ宮に入ってもらい、今後もさらに連携して地域を盛り上げていく予定です。



角田市野田地区民も招待し展望デッキお披露目

「地区住民の参加・協力」
でつくる民謡大会

自主防災組織体制を
見直し、活動を再始動！

地域に向き自発的な
取り組みをしつかり把握

「丸森オープンシアター2025」
地域内外の連携で実施

大張自治運営協議会

大張まちづくりセンター

TEL 0224-75-2124

①現状の把握：令和7年秋、旧大張小学校を会場に白石市出身の美術家、故宮城輝夫画伯の作品をはじめ、地域の芸術に触れる小さな文化祭を8日間にわたり開催。宮城さんは、丸森町に多くの作品や蔵書を寄贈しましたが、大きな作品が多く扱いが難しかったため、最近はあまり公開できていませんでした。

②検討・話し合い：東北工業大学の教授や学生・関係者からの提案をきっかけに、協議会は、地元の画家、地区の団体 HOOK、町教育委員会などと実行委員会を立ち上げ、企画検討を進めました。

③具体的実践：イベントは作品の楽しみ方、趣味の教室、健康講座、大学生の地域資源発表会なども共催し、地域内外から多くの方が来場しました。令和7年度当初の事業計画にはなかった事業でしたが、多様な関係者との連携で廃校の有効活用や地域活性化につながりました。



説明を受けながら作品を楽しむ来場者

「セーフティサポート耕野」
団体を整理統合し活動

耕野振興会

耕野まちづくりセンター

TEL 0224-75-2134

①現状の把握：地域づくりの担い手不足は全国共通の課題です。令和5年度には、耕野地区でも少子高齢化に伴い、地区の婦人防火クラブと交通安全母の会において丸森町連合会の会合等への参加が困難となり、連合会を脱退することになりました。

②検討・話し合い：令和6年度、理事会で話し合い、婦人防火クラブと交通安全母の会を1つにし、地元での活動を中心とした「セーフティサポート耕野」として活動していくことになりました。

③具体的実践：「セーフティサポート耕野」は各行政区の理事で構成され、かまど検査、炊き出し、

防災訓練、交通安全運動週間での街頭指導、敬老会のお手伝いなどを行います。運営の負担が減り、楽しく地区内の活動に専念できているとのこと。人口減少が進む地域の活動を維持するために、整理統合を前向きに実践したことが成果を生んでいます。



お揃いのジャンパーで交通安全街頭指導

集落支援業務とは

丸森町では令和4年度から、総務省の「集落支援員制度」を活用し、住民自治組織に業務を委託しています。これにより住民自治組織の基盤強化と、地域の特性を活かした魅力ある地域づくりの推進を図っています。

丸森町の集落支援業務は、地域の実情に詳しい住民自治組織が町と連携し、集落への「目配り」として地区の巡回訪問などにより状況把握を行い、①地域の声を聞き、②話し合いの場を作り、③地域課題解決や地区の活性化に向けた取り組みの実践へつなげる支援をしています。

① 現状の把握

- 例) ・高齢になり買い物など外出時にサポートが必要
・若い世代の地域活動への参加が少ない
・地域の自主的な防災の取り組みがすすまない

② 検討・話し合い

- 例) ・地区役員会での協議
・住民座談会の開催
・地域の関係者による検討委員会

③ 具体的実践

- 例) ・運動や健康づくりの場づくりや支援
・次世代の声を活かして事業実施
・高齢者の見守りからサロンや各種事業に繋げる

集落支援に関するお問い合わせ先

丸森町 各地区住民自治組織・まちづくりセンターのホームページ

<https://www.town.marumori.miyagi.jp/town/detail.php?content=572>

●企画財政課（役場2階）☎ 0224-72-3024

●委託元 / 丸森町企画財政課 ●発行 / 取材・編集：株式会社ばとん

